



## 2021年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年8月10日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社  
 コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江里口俊文  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理室長 (氏名) 佐伯賢二  
 四半期報告書提出予定日 2021年8月13日 配当支払開始予定日 2021年9月1日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 福

TEL 0968-66-2111

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年12月期第2四半期の連結業績(2021年1月1日～2021年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第2四半期	2,339	41.7	259		162		101	
2020年12月期第2四半期	1,650	61.2	517		477		472	

(注) 包括利益 2021年12月期第2四半期 91百万円 ( %) 2020年12月期第2四半期 499百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第2四半期	9.82	
2020年12月期第2四半期	45.67	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期第2四半期	20,968	10,463	49.9	1,012.19
2020年12月期	21,195	10,554	49.8	1,021.00

(参考) 自己資本 2021年12月期第2四半期 10,463百万円 2020年12月期 10,554百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期		0.00		0.00	0.00
2021年12月期		2.00			
2021年12月期(予想)				2.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日(2021年8月10日)公表いたしました「連結業績予想の修正、剰余金の配当(中間配当)及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

### 3. 2021年12月期の連結業績予想(2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,700	23.5	30		80		50		4.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2021年8月10日)公表いたしました「連結業績予想の修正、剰余金の配当(中間配当)及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期2Q	10,346,683 株	2020年12月期	10,346,683 株
期末自己株式数	2021年12月期2Q	9,260 株	2020年12月期	9,260 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年12月期2Q	10,337,423 株	2020年12月期2Q	10,337,423 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想ご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループの業績につきましては、前年から新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、3密を回避出来るレジャーとして、ゴルフ事業は好調に推移いたしましたものの、政府および自治体による断続的な緊急事態宣言や営業時間短縮要請等の影響は大きく、特に遊園地事業やホテル事業における利用者数は伸び悩みました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,339,306千円（前年同期比688,570千円増）となり、営業損失は259,951千円（前年同期は営業損失517,359千円）、経常損失は162,068千円（前年同期は経常損失477,662千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は101,565千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失472,105千円）となりました。

項 目	当第2四半期 連結累計期間 (千円)	前第2四半期 連結累計期間 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	2,339,306	1,650,736	688,570	41.7
営業損失(△)	△259,951	△517,359	257,408	-
経常損失(△)	△162,068	△477,662	315,594	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△101,565	△472,105	370,539	-

報告セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

① 遊園地セグメント

九州の『グリーンランド』におきましては、今年、開園から55周年という節目の年を迎えるにあたり、人気イラストレーターを起用して、オリジナルキャラクター「遊戦士グリランダー」を制作し、来園特典シールの配布やWEBでのPR展開を行うなど、様々な形でメモリアルイヤーを盛り上げてまいりました。

春のイベントにつきましては、まず、TVアニメ「約束のネバーランド」とのコラボイベント「グリーンランド農園に潜入せよ」を開催いたしました。西日本初開催となる本イベントでは、園内ラリーイベントのほか、アトラクションやレストランメニューとのコラボレーション展開により、本作品の世界観を存分に体験していただきました。

また、グリーンランド名物の巨大屋外ステージ「グリーンスタジアム」では、大人気の仮面ライダーセイバーを主役とした「仮面ライダーセイバー スペシャルショー」を開催し、多彩な演出によるアクション満載の大迫力のライブショーで、会場全体が興奮に包まれました。

アトラクションにつきましては、春休みを中心に期間を限定して、巨大エア遊具「BIGエアープレイランド」を設置し、屋外アスレチック体験をお楽しみいただきました。

そのほか、新型コロナウイルス感染症予防対策の一環として、電子チケットの販売促進やアトラクションフリーパスの年齢による料金区分への見直しなど、お客様がスムーズにご入園いただけるような取り組みを行いました。

以上の取り組みを行いました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各種団体利用客のキャンセルも目立ち、また、収容人数の制限や営業時間短縮要請などによりイベントの縮小や延期を余儀なくされるなど、ゴールデンウィーク期間を含む春の行楽シーズンに臨時休園を行った前年は上回ったものの、厳しい状況が続きました。

その結果、利用者数は前年同期比101,961人増加の215,547人となり、売上高は前年同期比524,664千円増加の1,071,187千円となりました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、スキースクールなどの各種団体にキャンセルが見られたものの、降雪に恵まれたことで良好なゲレンデコンディションに仕上がりに、来場者数は減少いたしましたものの、売上高は前年同期を上回りました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、4月のオープンに合わせ「仮面ライダーセイバー」、「トロピカル〜ジュ！プリキュア」、「機界戦隊ゼンカイジャー」など最新のキャラクターショーを開催し、ファミリー層を中心に集客を図りました。

そのほか、新たな広告手段として、人気ユーチューバーとコラボレーションした動画を配信し、幅広い層に向けて、遊園地の魅力を存分にPRいたしました。

また、『いわみざわ公園管理』におきましては、キャンプ場やパークゴルフ場などの開放的なレジャーへの関心は高まりましたものの、北海道全域における緊急事態措置に伴い、特に札幌市内など都市部からの客足に影響を受け、利用者数は伸び悩みました。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は前年同期比12,697人増加の42,707人となり、売上高は前年同期比72,983千円増加の178,333千円となりました。

以上の結果、利用者数は前年同期比114,658人増加の258,254人となり、売上高は前年同期比597,647千円増加の1,249,520千円となりました。

## ② ゴルフセグメント

ゴルフ事業におきましては、新型コロナウイルス感染拡大の状況下において、ゴルフプレーが開放的な屋外スポーツとして多くのお客様の支持を受けており、その安全・安心へのご期待に応えるべく、お客様のご入場からお着替え、お食事、そしてプレー終了に至るまで、徹底した感染予防対策に注力いたしました。その上で、若者層から女性層、シニア層まで幅広いお客様に満足していただけるような、万全なコース整備・改良ならびに設備の拡充に努めてまいりました。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、今年、開場から55周年を迎えることに合わせて、記念コンペの開催や各種サービスの拡充を実施し、友の会会員を中心に更なるリピーター拡大を図りました。また、パブリックゴルフ場としての気軽さとナビゲーションシステム付ゴルフカートの強みを活かし、近年、増加傾向が見られる若者層のゴルファー獲得に向けた営業促進を図りました。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースにおきましては、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、従来の大型コンペの実施の見送りが目立ちましたものの、メンバーによるビジター同伴プラン促進などにより、個人グループでの利用獲得を図りました。

また、気軽にプレーが出来るよう、9ホールの中ホールプレープランを設定し、ゴルフ初心者層への訴求を図ることと、更なる顧客層の拡大に努めました。

以上の結果、利用者数は前年同期比15,935人増加の70,644人となり、売上高は前年同期比127,943千円増加の509,727千円となりました。

## ③ ホテルセグメント

九州の『ホテルブランカ』、『ホテルヴェルデ』におきましては、両ホテルがグリーンランドリゾートオフィシャルホテルとして備える魅力を、全スタッフが一丸となって、お客様にPRすることに重点的に取り組みました。特に、遊園地・ゴルフ場に接する立地優位性、グループ施設を特別価格で利用できる価格優位性、強みとなる各スタッフの専門的なスキル等を前面に打ち出し、スタッフ一人一人が営業担当者という意識をもって、売上拡大に努めました。

また、2つのホテルを持つメリットを活かした営業形態の効率化や、資材の仕入単価の見直し等による経費削減にも注力しました。

売上拡大の具体的な取り組みとして、宿泊部門におきましては、お客様の多様なニーズに合わせて遊園地・ゴルフ場との宿泊セットプランを造成したほか、電話でのお問い合わせに対して、オフィシャルホテルだけが提供できる金額・時間両面でのメリットについて、全てのスタッフが的確にご案内できる体制を築きました。

料飲部門においては、屋内での宴会が控えられる中、コロナ禍においても開放空間で密を避けられるバーベキューバイキングや、ホテルシェフによるデリバリー料理のPRを行う等、地元客のご利用促進に向けた営業強化に努めました。

以上の取り組みを行い、一時臨時休館した前年は上回りましたが、緊急事態宣言や営業時間短縮要請等が客足に与えた影響は大きく、九州の『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は前年同期比738人増加の11,850人となり、売上高は前年同期比16,337千円増加の230,330千円となりました。

北海道の『ホテルサンプラザ』におきましては、遊園地とスキー場に近い立地を活かし、フルエンジョイプランや岩見沢市の宿泊支援サービス（ザワ割）の販売による宿泊客の獲得を図りましたものの、新型コロナウイルス感染症に伴う大型団体等の利用手控えもあり、特に宴会部門が振るわず、全体として売上は落ち込みました。

北海道の『北村温泉ホテル』におきましては、3月に大規模リニューアルオープンして以来、地元客を中心に、日帰り入浴ならびにレストラン利用は堅調に推移いたしました。宿泊、宴会部門は伸び悩みました。

この結果、北海道の『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』を合わせた宿泊者数は前年同期比48人増加の5,258人となり、売上高は前年同期比28,444千円減少の121,353千円となりました。

以上の結果、宿泊者数は前年同期比786人増加の17,108人となり、売上高は前年同期比12,107千円減少の351,683千円となりました。

④ 不動産セグメント

不動産事業における賃貸収入につきましては、一部テナントの賃料改定を行ったことに伴い増収となり、売上高は前年同期比5,933千円増加の85,180千円となりました。

⑤ 土木・建設資材セグメント

土木・建設資材事業におきましては、解体工事などの受注は好調でしたが、客土用土のほか、建設資材のコールサンドやポゾテックの販売が落ち込み、売上高は前年同期比30,847千円減少の143,193千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、20,968,647千円（前連結会計年度末比227,018千円減少）となりました。

流動資産は、820,015千円（前連結会計年度末比168,416千円減少）となりました。これは主に、受取手形及び売掛金・その他（主に未収法人税等）が減少したことによるものであります。

固定資産は、20,148,632千円（前連結会計年度末比58,602千円減少）となりました。これは主に、建物及び構築物が減少したことによるものであります。

流動負債は、4,945,617千円（前連結会計年度末比531,733千円増加）となりました。これは主に、短期借入金が増加したことによるものであります。

固定負債は、5,559,586千円（前連結会計年度末比667,657千円減少）となりました。これは主に、長期借入金が増加したことによるものであります。

純資産は、10,463,443千円（前連結会計年度末比91,095千円減少）となりました。これは主に、利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、2021年2月12日に未定として公表いたしました2021年12月期通期連結業績予想を修正いたしております。

なお、詳細につきましては、本日開示の「連結業績予想の修正、剰余金の配当(中間配当)及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	476,314	514,778
受取手形及び売掛金	223,221	119,248
商品	44,405	51,280
原材料及び貯蔵品	45,040	51,590
その他	203,194	86,193
貸倒引当金	△3,744	△3,076
流動資産合計	988,431	820,015
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	3,381,961	3,298,854
機械装置及び運搬具(純額)	572,410	530,790
土地	14,917,042	14,918,119
その他(純額)	161,149	154,319
有形固定資産合計	19,032,563	18,902,085
<b>無形固定資産</b>		
その他	213,028	211,992
無形固定資産合計	213,028	211,992
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	270,437	285,507
繰延税金資産	429,417	488,242
退職給付に係る資産	179,489	181,238
その他	83,399	80,665
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	961,643	1,034,554
固定資産合計	20,207,235	20,148,632
資産合計	21,195,666	20,968,647

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	62,879	22,007
営業未払金	92,200	58,116
短期借入金	3,898,696	4,532,871
未払金	246,535	183,875
未払法人税等	900	34,545
その他	112,672	114,202
流動負債合計	4,413,884	4,945,617
固定負債		
長期借入金	3,569,063	2,948,002
長期預り金	2,516,422	2,469,622
退職給付に係る負債	10,803	11,991
その他	130,954	129,970
固定負債合計	6,227,244	5,559,586
負債合計	10,641,128	10,505,204
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,577,938	1,476,373
自己株式	△3,036	△3,036
株主資本合計	10,522,837	10,421,272
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,700	42,170
その他の包括利益累計額合計	31,700	42,170
純資産合計	10,554,538	10,463,443
負債純資産合計	21,195,666	20,968,647



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
売上高	1,650,736	2,339,306
売上原価	1,897,665	2,321,367
売上総利益又は売上総損失(△)	△246,929	17,939
販売費及び一般管理費	270,430	277,890
営業損失(△)	△517,359	△259,951
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	4,814	4,998
受取賃貸料	3,243	3,393
受取保険金	20,854	8,871
助成金収入	24,590	101,132
雑収入	7,935	3,882
営業外収益合計	61,438	122,278
営業外費用		
支払利息	20,633	21,699
雑損失	1,107	2,696
営業外費用合計	21,740	24,395
経常損失(△)	△477,662	△162,068
特別利益		
固定資産売却益	2,507	2,018
受取保険金	—	11,859
助成金収入	10,275	—
特別利益合計	12,783	13,878
特別損失		
固定資産除売却損	30,091	—
災害による損失	—	8,495
臨時休業による損失	※ 134,981	—
特別損失合計	165,072	8,495
税金等調整前四半期純損失(△)	△629,952	△156,684
法人税、住民税及び事業税	4,067	8,305
法人税等調整額	△161,913	△63,425
法人税等合計	△157,846	△55,119
四半期純損失(△)	△472,105	△101,565
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△472,105	△101,565

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
四半期純損失(△)	△472,105	△101,565
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△27,490	10,469
その他の包括利益合計	△27,490	10,469
四半期包括利益	△499,595	△91,095
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△499,595	△91,095
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△629,952	△156,684
減価償却費	227,921	198,426
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△8,677	△1,748
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	797	1,187
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△479	△668
受取利息及び受取配当金	△4,815	△4,999
支払利息	20,633	21,699
受取保険金	△20,854	△20,730
助成金収入	△34,866	△101,132
固定資産除売却損益(△は益)	27,583	△2,018
売上債権の増減額(△は増加)	108,378	106,993
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,105	△13,425
仕入債務の増減額(△は減少)	△146,677	△74,955
未収消費税等の増減額(△は増加)	△47,605	51,679
未払金の増減額(△は減少)	△143,680	△38,969
未払消費税等の増減額(△は減少)	△87,350	37,784
その他	△52,339	8,502
小計	△795,088	10,939
利息及び配当金の受取額	4,815	4,999
利息の支払額	△21,208	△22,179
保険金の受取額	20,854	20,730
助成金の受取額	34,866	101,132
法人税等の支払額	△132,978	△4,485
法人税等の還付額	0	88,036
営業活動によるキャッシュ・フロー	△888,738	199,173
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△158,010	△124,296
有形固定資産の売却による収入	2,524	3,010
無形固定資産の取得による支出	△10,734	△4,446
その他	△168	△1,002
投資活動によるキャッシュ・フロー	△166,388	△126,734
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	419,000	695,000
長期借入れによる収入	1,520,000	40,000
長期借入金の返済による支出	△680,807	△721,886
長期預り金の受入れによる収入	2,600	1,200
長期預り金の返還による支出	△65,580	△48,000
リース債務の返済による支出	△1,624	△201
配当金の支払額	△72,295	△87
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,121,293	△33,975
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	66,166	38,464
現金及び現金同等物の期首残高	350,742	476,314
現金及び現金同等物の四半期末残高	416,909	514,778

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が全国的に拡大傾向にあり、当社及び当社グループにおける各自治体からの営業時間短縮要請など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に関して不透明な状況が続いておりますが、新型コロナウイルスワクチンの接種効果により、今後利用者数が改善していくと想定しており、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定及び会計上の見積りについて重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※臨時休業による損失

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、政府及び各自治体から出された外出自粛要請等を受け、九州の遊園地をはじめとする当社グループの一部事業所で、ゴールデンウィークを含む期間におきまして臨時休業や営業時間の短縮を実施いたしました。このため、臨時休業期間中の遊園地事業及びホテル事業において発生した固定費(人件費・減価償却費など)及び遊園地事業において発生したイベント中止に係る費用を臨時休業による損失として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	651,873	381,784	363,790	79,246	174,040	1,650,736	—	1,650,736
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,071	5,490	9,923	5,604	10,268	32,358	△32,358	—
計	652,945	387,275	373,714	84,850	184,308	1,683,094	△32,358	1,650,736
セグメント利益又は損失(△)	△155,869	△42,448	△259,489	53,347	45,205	△359,254	△158,105	△517,359

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△151,672千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,249,520	509,727	351,683	85,180	143,193	2,339,306	—	2,339,306
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,154	5,529	9,525	5,944	2,349	24,503	△24,503	—
計	1,250,675	515,257	361,209	91,124	145,542	2,363,809	△24,503	2,339,306
セグメント利益又は損失(△)	7,933	63,772	△250,626	56,829	19,842	△102,248	△157,702	△259,951

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△159,595千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。